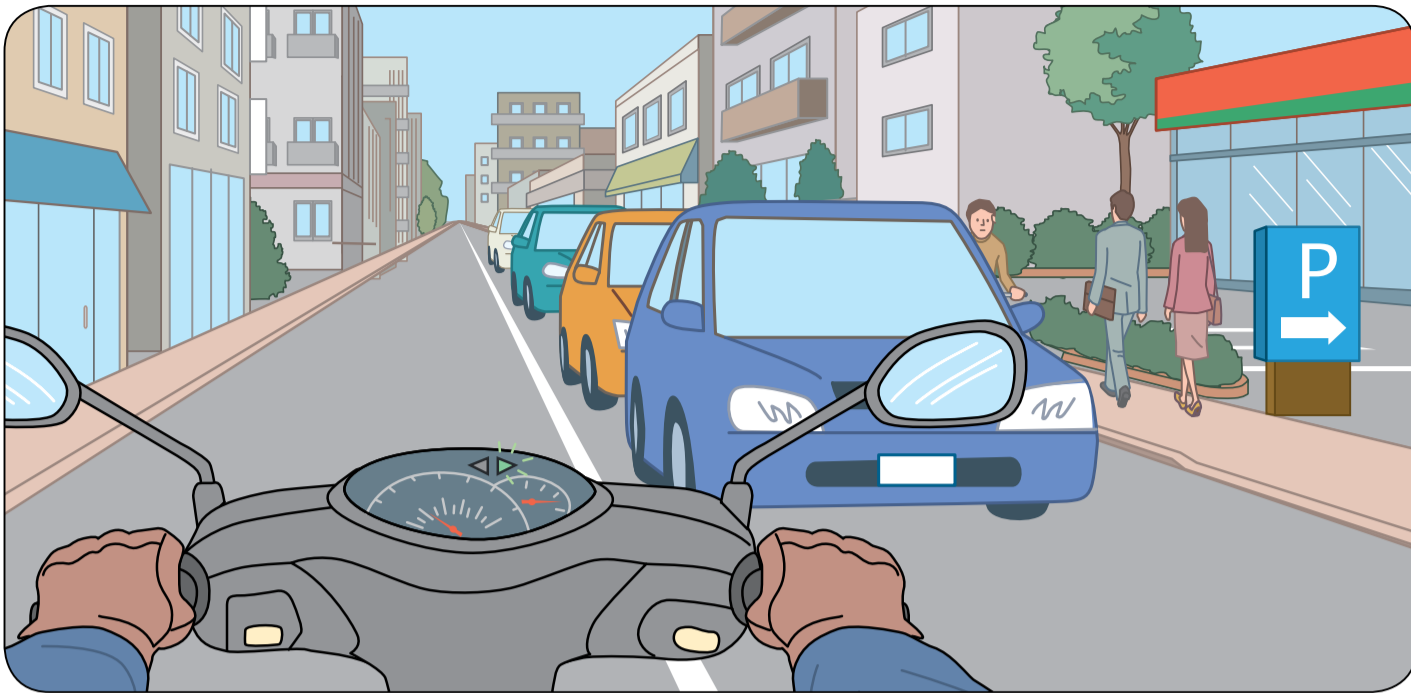


危険予測トレーニング (KYT) — 危険感受性を育てる

第52回 渋滞で停車中のクルマの間を右折する(二輪車編)



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は二輪車のライダーに、右折時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

ホンダ SJ 検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL: 03(5412)1736 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業(株)

あなたは原付で右側の店舗の駐輪場に入るため、右折しようとしています。対向車線は渋滞中で、正面のクルマは停止しています。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

Q1

平成27年中の二輪車(原付・自動二輪)乗車中の交通事故死者数を年齢層別にみると、次のうち最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？

- ① 20～29歳 ② 40～49歳
③ 50～59歳

Q2

平成27年中の二輪車(原付・自動二輪)乗車中の交通事故死者数を損傷部位別にみると、頭部の割合が42.8%と最も高くなっていますが、次に多い部位は次のうちどれでしょう？

- ① 頸部 ② 胸部 ③ 腹部

Q3

警視庁が平成27年7月中に実施した胸部プロテクターの着用状況調査の結果、対象ライダーの着用率は次のうちどれでしょう？

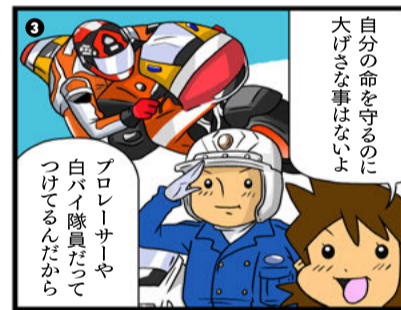
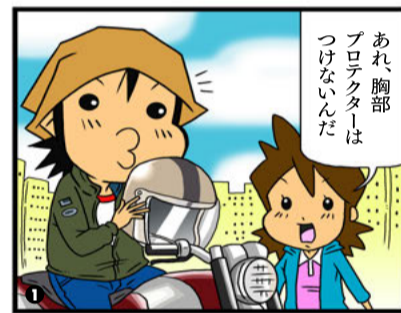
- ① 約7% ② 約21%
③ 約35%

※対象は、各警察署において二輪車ストップ作戦実施中に指導した自動二輪車および原付。

※「解答」は8面下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

漫画: 塚本ケースケ



SJ クイズ ?

© 本田技研工業(株)

指導者ファイル

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

33

栃木県宇都宮市・交通安全教育指導員の皆さん

写真左から小林典子さん、村田恵理子さん、山田美さん

ドライバー、自転車利用者、歩行者それぞれの目線での安全行動を伝える

宇都宮市は栃木県の県庁所在地で人口約52万人の都市だ。同市では生活安心課に所属する交通安全教育指導員の皆さんが、幼児、小学生、高齢者への教育・啓発を担っており、平成27年度は交通安全教室を400回以上実施している。

高齢者向けの交通安全教室の内容は年度ごとに変わっており、今年度はドライバー、自転車利用者、歩行者それぞれの目線から、まんべんなく伝えることを意識した内容となっている(右記参照)。交通安全教育指導員の村田さんは「高齢者の方が考えたり、発言していただけるような交通安全教室をめざしています」と話す。

そのために取り入れているのが、危険予測トレーニングだ。問題として提示する交通場面は、街中や住宅地で多い事故形態を



調べ、それに近い状況を撮影したものだ。「正解を導くというより、高齢者の方々がその場面で日頃、どんなことに気をつけているかなど活発に発言していただくことがねらいです」と小林さん。

山田さんは「最後には、皆さんに笑って帰っていただきたい」と、希望があれば交通安全教室で寸劇を披露しているという。寸劇では、オリジナルキャラクターの武蔵(たけぞう)さんのコミカルな演技で高齢者を引き付け、事故を防ぐための安全行動を伝えている。

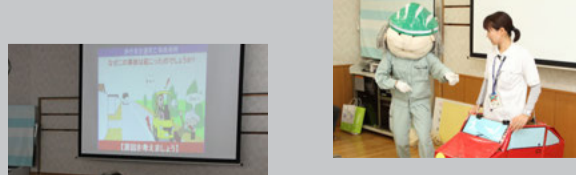
宇都宮市では今年度からHondaが開発した新高齢歩行者プログラムを取り入れている。「同じ場面を歩行者、ドライバーそれぞれの目線で比較できるなど、言葉では伝えきれないことが映像で補足できるように工夫されているので役立っています」と村田さんはいう。

●高齢者を対象にした交通安全教室(1時間)

ドライバー目線では運転席から見た交通場面の写真を見せて、どのような危険が考えられるか、高齢者に答えてもらう。見えない危険に対する危険予測の必要性を強調する



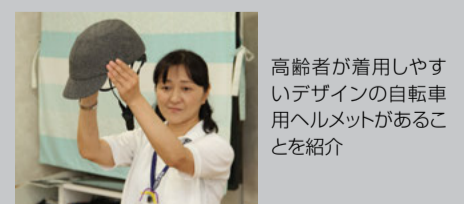
歩行者目線では武蔵(たけぞう)さん(写真右)による寸劇を通じて、道路横断時の安全確認や反射材着用の必要性を説明。事故防止のポイント「まみむめも」というキーワードで覚えてもらう



Hondaが開発した新高齢歩行者プログラムも活用している



自転車利用者目線ではヘルメット着用の効果を伝えるための実験を行う。お手玉を2つのザルではさみ、それに帽子とヘルメットをそれぞれかぶせたものを高齢者に落としてもらう。帽子をかぶせたほうのザルはお手玉が飛び出してしまう



高齢者が着用しやすいデザインの自転車用ヘルメットがあることを紹介

指導者の皆さんの活動を動画で紹介

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>